



障害児学校部ニュース①

2025 年4月 20 日(日)

広島県内の障害児学校にお勤めのみなさん、こんにちは。

今年度、広島県高等学校教職員組合障害児学校部長 2 年目の三原特別支援学校の菅と申します。

私たち障害児学校部は、広島県内の特別支援学校で働く全ての方々が、健康で生き生きとやりがいを持って働くことができるよう、また、子どもたちが生き生きと学ぶことができるよう、県内各校の情報を集約し、問題点や課題を明らかにし、教育委員会へ要望を届け、改善につなげるなど、様々な活動をしています。

今年度も、定例の委員会、8月の夏季研修会、県教委との話し合い、9月のスポーツ大会など、元気に活動を展開していきたいと思っています。

さて、3月から4月にかけては、出会いと別れの季節。どの学校でも、生徒たちを送り出すと同時に、これまで活躍してきた先生たちとの別れがあったり、新採用者を迎えたりと、いろいろなドラマがあったことと思います。そんな中、ここ数年毎年気になることがあります。それは、臨時採用の先生方や、介助員さん、看護師さん、スクールサポートスタッフ、学校事務アシスタントなどの会計年度職員(非常勤職員)の方々への管理職の対応です。どの職種も、学校にとってなくてはならない大切な仕事です。勤務の形態から、どうしても単年契約となるため、毎年3月になると「来年度仕事があるのかどうか」という問題に直面します。これまでの多くの管理職は、1年間子どもたちのために尽力して下さった職員に感謝と敬意を払い、次年度に自校で継続雇用ができない場合は、次の仕事を探すなど、臨採・非常勤の方へ寄り添った対応をしていました。ところが、本校でもここ数年、「次年度の雇用はあるかどうか分からない」「連絡がなかったら、雇用はないものと思ってください」など、臨採・非常勤職員への対応が冷たすぎると感じます。みなさんの生活が懸かっているわけですから、最低限「何日までには連絡します」という話は必要です。そうでなければ、例えば他校の校長から「うちで働きませんか」と連絡があっても、返事すらできないのです。

各校で、臨採・非常勤職員への対応がどうなっているのか、当該の先生と話をしてみてください。日常の業務についても、以前と比べてやりにくくなったという話も聞きます。それぞれの学校で、臨採・非常勤職員のみなさんが、働きやすい環境にしていけることが必要です。

また、各校で新年度がスタートし、どこの学校も少ない人員で多くの業務を抱え、毎日がバタバタ過ぎていっているのではないのでしょうか？新たに導入される業務はありませんか？仕事は増えているのに早く帰れと学校を追い出されていませんか？持ち帰り業務は増えていませんか？

「働き方改革」とは名ばかりで、私たちは毎日の業務に追われ、早く帰らされることで焦らされ、精神的プレッシャーの中で仕事をしています。限られた時間の中で焦って仕事をしなければならないため、ミスも起きやすいのが今の職場です。一方で個人情報の紛失をしないようにと様々なチェック体制が新たな業務として課され、やることは増えるのに時間がないというジレンマの中、プレッシャーにさらされ続けています。これでは「ブラック企業」からの脱却は程遠く、子どもたちの前でもよいパフォーマンスが出せるはずありません。

黙って我慢しては、状況の改善はありません。みなさん、ぜひ、組合に入って、私たちと一緒にすべての人が働きやすい職場づくりを考えていきませんか。今年度もよろしくお願いします。

